



株主・投資家のみなさまへ

第87期 経営報告書

2008年4月1日から2009年3月31日まで



SMK株式会社

「雌伏」と「変革」

—変化への対応力強化—



● 企業理念

SMKは可能性の追求を通して総合的な高度技術により、情報社会の発展に寄与する。

● SMK「行動指針」

1. 社会への貢献を考え、誇りと自信をもって行動する。
2. ユーザーの立場を考え、熱意と誠意をもって行動する。
3. 高い目標を考え、失敗を恐れぬ勇気をもって行動する。
4. 明るい社風づくりを考え、信頼と尊重をもって行動する。
5. 世界の中のSMKを考え、国際的視野をもって行動する。

Contents

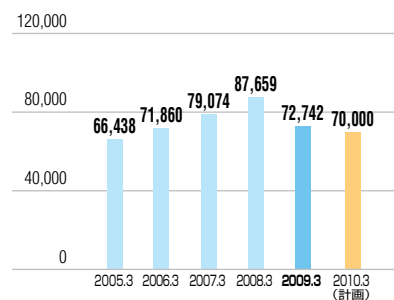
| | |
|--------------|----|
| 財務ハイライト (連結) | 2 |
| トップメッセージ | 3 |
| 市場別の概況 (連結) | 5 |
| 新製品ご紹介 | 7 |
| TOPICS | 9 |
| 事業所のご紹介 | 12 |
| 決算概要 (連結) | 13 |
| 決算概要 (単独) | 15 |
| 株式の状況 | 17 |
| コーポレートデータ | 18 |

財務ハイライト(連結)

| | 第83期 2005.3 | 第84期 2006.3 | 第85期 2007.3 | 第86期 2008.3 | 第87期 2009.3 | 第88期計画 2010.3 |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|------------------|
| 売上高 (百万円) | 66,438 | 71,860 | 79,074 | 87,659 | 72,742 | 70,000 |
| 経常利益 (百万円) | 4,965 | 5,512 | 6,190 | 4,327 | 1,029 | 2,200 |
| 当期純利益 (百万円) | 3,081 | 3,473 | 3,693 | 2,094 | △1,620 | 1,500 |
| 総資産額 (百万円) | 57,955 | 61,344 | 65,575 | 66,737 | 58,168 | — |
| 純資産額 (百万円) | 27,568 | 32,730 | 34,564 | 32,386 | 29,079 | — |
| 1株当たり当期純利益 (円) | 39.11 | 44.33 | 47.48 | 27.32 | △21.68 | 20.28 |
| 1株当たり配当金 (円) | 10.00 | 10.00 | 14.00 | 14.00 | 9.00 | 6.00 |

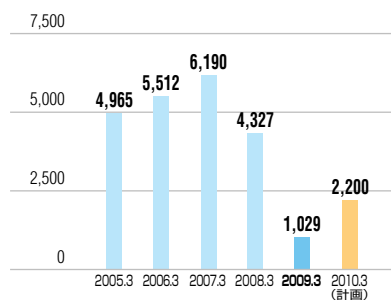
売上高

(単位: 百万円)



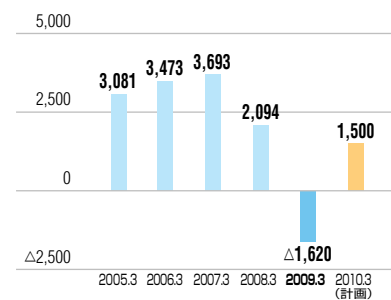
経常利益

(単位: 百万円)



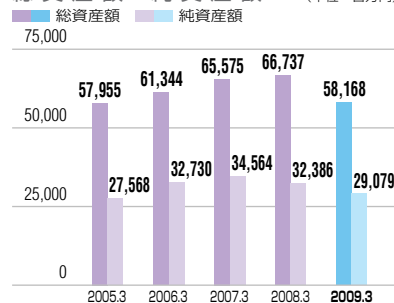
当期純利益

(単位: 百万円)



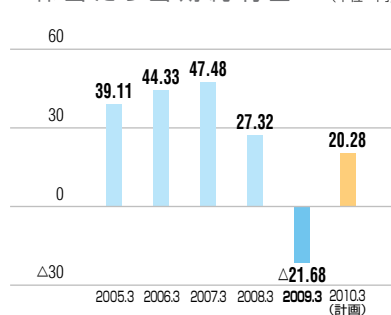
総資産額 / 純資産額

(単位: 百万円)



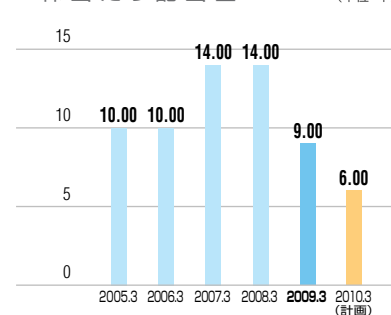
1株当たり当期純利益

(単位: 円)



1株当たり配当金

(単位: 円)



第87期期末(2009年3月末)の配当金は1株当たり3円とさせていただきます。



代表取締役会長

池田 彰孝

代表取締役社長

中村 哲也

当期の概況

当期における世界経済は、米国発の金融危機の影響が实体经济に及び、下半期から世界同時不況と呼ばれる厳しい景気後退局面に入りました。日本経済におきましても、世界的な消費者マインドの落ち込みと円高を受け、輸出や設備投資が減少し不況感が強まりました。エレクトロニクス業界におきましては、上半期は好調な輸出を背景として企業収益は堅調に推移しましたが、下半期は円高の進行、急速な在庫調整の影響などにより経営環境は厳しさを増しました。

こうしたなか、当社グループの当期における連結業績は前期比で減収減益となり、当期純損失を計上いたしました。このような状況に対し生産体制の見直しにより在庫を圧縮しながら、経費削減を図るとともに、当社の技術力を生かした魅力ある商品を市場に投入し、業績の向上を目指し鋭意努力してまいり所存です。

“「雌伏」と「変革」—変化への対応力強化—”

当社は「可能性の追求を通して総合的な高度技術により、情報社会の発展に寄与する」ことを企業理念とし、「世界における情報インフラの有力なサプライヤーとしての地位を確立する」ことを目標にしております。

昨今、経済環境の激変、消費の多様化、製品のデジタル化により変化のスピードが加速するなかで、商品開発期間の短縮傾向が進み、また電子部品の品質のさらなる向上が求められています。これらの変化にすばやく対応し、競争に勝ち抜いていくために、今期は“「雌伏」と「変革」—変化への対応力強化—”をスローガンに、SMKブランド力の向上、品質改善のためのZD（ゼロ・デフェクト）運動、ものづくりへの再チャレンジを推し進めてまいります。

2009年度は通信、デジタル家電やカーエレクトロニクスに加えて太陽光利用など環境分野の新しいビジネスチャンスを実体化し、成長分野への機敏な対応と新製品、新技術、新市場の開発強化に取り組み、世界同時不況に生き残る強固な企業体質を確立してまいります。

当社は「地球環境との共存」を企業の責務と考え、重要な経営課題として位置付けております。グリーン調達を積極的に進め、RoHS指令に代表される法規制への対応をさらに強化してまいります。また、省エネルギー・省資源など環境対応を視野に入れた環境負荷の少ない開発・設計、環境保全に貢献できる製品づくりを追求し、今後とも、地球環境保全のために真摯な取り組みを進めてまいります。

収益環境は厳しさを増すことが予想されますが、SMKグループ一丸となって、企業価値の向上と業績向上のために全力を尽くす所存であります。株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2009年6月

代表取締役会長

池田彰孝

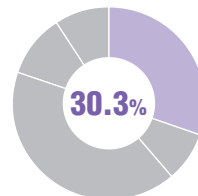
代表取締役社長

中村哲也

AV分野



HDMI規格 タイプA レセプタクル

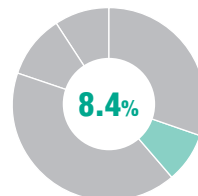


映像・音響部品：220億4千4百万円

電装分野



フォースフィードバックタッチパネル

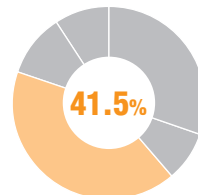


電装部品：60億7千7百万円

通信分野

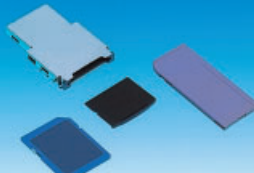


ステレオイヤホンマイク、Bluetoothユニット

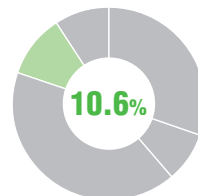


通信部品：302億7百万円

情報分野



xD-4in1カードコネクタ(1スロットタイプ)

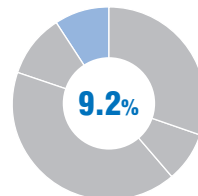


情報事務機部品：76億8千1百万円

家電分野



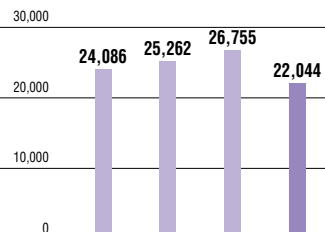
PLC用DS-SS変復調エンジン



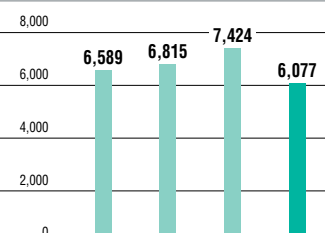
電子玩具・家電、その他部品：67億3千2百万円

売上高 (単位: 百万円)

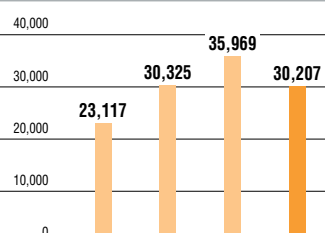
第84期 第85期 第86期 第87期
2006.3 2007.3 2008.3 2009.3



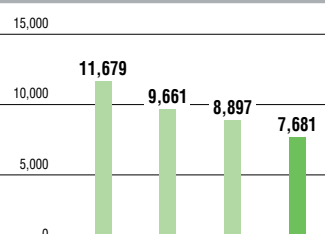
薄型テレビ向けリモコン、携帯オーディオ向けコネクタが堅調に推移したものの、昨年秋以降、音響機器、セットトップボックス向け売上が失速したため、苦戦いたしました。今後は、市場をリードするRFリモコンをはじめ、高速伝送対応コネクタなど、ニーズを先取りした新製品開発の拡充を図ってまいります。



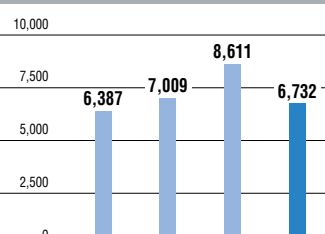
自動車販売台数の落ち込みにより、カーオーディオ用部品およびカーナビゲーション市場向けタッチパネル、マイクユニットなどの売上が低迷いたしました。現在、新しい顧客ニーズに応えるため、車載用各種コネクタをはじめ、操作用部品などの商品開発に努めており、新製品のタイムリーな市場投入を目指してまいります。



全体の売上は、昨年秋以降の海外大手携帯電話機メーカーの生産調整が影響し、低迷いたしました。スマートフォン向けコネクタ、スイッチ、タッチパネルなどの売上は拡大いたしました。引き続き、携帯電話の高付加価値化に貢献できる操作用部品、内部部品などの新製品の開発に注力してまいります。



ATM向けタッチパネルや、インターネット端末向けリモコンが健闘したものの、ノートパソコンやデジタルスチルカメラの急激な市況悪化の影響を受け、コネクタやユニット製品の売上が低迷いたしました。今後は、次世代のデータ伝送市場向け部品をはじめ、新しい市場の動きに対応する新製品開発を積極的に進めてまいります。



電子辞書用タッチパネルなどが新規に売上をけん引したものの、テレビゲーム機向けコネクタ、エアコン・照明器具などの家電製品向けリモコンが低調に推移し、苦戦いたしました。今後は、太陽電池や燃料電池などの新エネルギー分野をはじめとする環境ビジネスに向けた新製品開発を強力に推進してまいります。

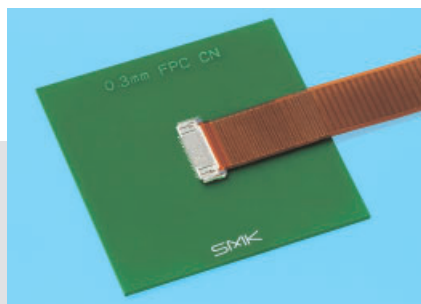
高速伝送に対応・実装高さ0.8mm 低背タイプ 0.3mmピッチ シールド対応 FPCコネクタ「EN-32シリーズ」を開発、発売

当社は携帯機器向けに、高速伝送に対応した0.3mmピッチ シールド対応FPCコネクタ「EN-32シリーズ」を開発し、発売を開始しました。

近年、DVC、DSCなどの高画質・高性能化に伴い、伝送信号の高速化が進んでいます。高速伝送に対応した内部接続用コネクタの要求も高まり、撮像素子や液晶とメイン基板との接続には、主に極細線同軸コネクタが使用されています。

当社では業界に先駆けて、極細線同軸をシールド付FPCに置き換えることを提案し、実装高さ1.2mmの0.3mmピッチ シールド対応FPCコネクタ「EN-31シリーズ」を発売、好評を博していますが、このほど市場のさらなる低背・小型化ニーズに応え、実装高さ0.8mm（従来品比33%減）の本製品を開発しました。極細線同軸コネクタと同等性能を実現し高速伝送に対応します。

コネクタは金属シールドに覆われており、シールド特性とコネクタ剛性アップにより、高接触信頼性を確保しています。シールド付FPCと組み合わせて使用することで、FPCとコネクタ一体でグラウンドを強化し、より効果的なEMI対策が可能です。



0.3mmピッチ
シールド対応
FPCコネクタ
「EN-32シリーズ」

マイクレスBluetooth® ヘッドセット「FX 7009」を開発

当社は、一つのイヤホンユニットで受話時はイヤホン、送話時はマイクロホンの機能を搭載したフルデュプレクス方式のBluetooth®ヘッドセット「マイクレスBluetooth®ヘッドセット：FX7009」を開発しました。

本製品は、イヤピースを耳孔に差し込み、鼓膜の微弱な振動を外耳道内でピックアップすることにより、マイク機能を実現させました。

一般的なBluetooth®ヘッドセットに比べて、マイクレス構造のため、外部からの騒音の影響を受けづらい構造となっています。

また、エコーキャンセル、ノイズキャンセル機能を併用し、通常では通話困難な騒音環境（強風などの風切り音など）においても快適な通話を実現しました。

(注) Bluetooth®は、Bluetooth SIG, Inc.の登録商標であり、SMKはライセンスに基づきこれらの商標を使用しています。



マイクレスBluetooth®
ヘッドセット：FX7009

マルチタッチ入力に対応した 小型静電容量方式タッチパネルを開発

当社は、多点入力（マルチタッチ）やジェスチャー入力に対応した静電容量方式タッチパネルを開発し、量産を開始しました。

近年、携帯電話の高機能化、大画面化に伴い、直感的に入力できるユーザーインターフェースに注目が集まっています。こうしたニーズに応え、当社では小型機器向けの静電容量方式を用いたタッチパネルを開発しました。

静電容量方式はセンサー面の電荷の容量変化を検出して位置を読み取る仕組みとなっています。このため、抵抗感圧方式のような押し込むという動作が必要なく、指で触れるだけで軽快な操作が可能です。また、マルチタッチ入力やジェスチャー入力に対応しており、ズームイン／ズームアウト（画面の拡大／縮小）や、ページ送りのようなジェスチャー操作が可能です。

当社では、本製品の開発にあたり、タッチパネルを製品に組み込んだ際の液晶の視認性、軽快な操作感の実現を最重要ポイントと考えました。このため、通常では困難と考えられていた、高透過で無色透明な見栄えと、高感度な入力の両立に取り組み、独自の製造方法によりこれを実現しました。

今後はニーズの高い化粧板とタッチパネルを貼り合わせたモジュール供給にも取り組み、小型機器への幅広い用途に販売を展開してまいります。



小型静電容量方式
タッチパネル

IEEE802.11b/g対応 無線LANモジュールWL101Cを開発

当社は、「IEEE802.11b/g対応無線LANモジュールWL101C」を開発し、受注活動を開始しました。

近年、手軽にネットワークの構築を可能とする無線LANの普及拡大には目を見張るものがあります。とりわけ、オーダーエントリー端末、ハンディターミナル、webターミナル、業務用プリンタをはじめとする業務用情報端末の分野において、無線LANのニーズが著しく増大しています。

しかしながら、従来こうした業務用情報端末に無線LANモジュールを搭載しようとする、サイズや消費電力などの条件が厳しく、ごく一部の機器に限られていました。今回、こうした要求に対応するため、機器組み込み型の「IEEE802.11b/g対応無線LANモジュールWL101C」を開発し、商品化しました。

本製品は、各種情報通信端末へ組み込むことで、容易にワイヤレスネットワーク化を実現します。



IEEE802.11b/g対応
無線LANモジュール
WL101C

UL認証を取得：太陽光発電システム向け「太陽電池モジュール用コネクタ」

太陽光発電システム市場向けに発売し好評を博している「太陽電池モジュール用コネクタ」について、米国市場向けにUL認証を取得いたしました。

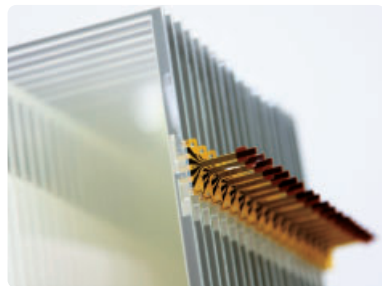
クリーンエネルギーの一つである太陽光発電システムは、欧州を中心に注目され需要が拡大しており、米国においても今後の成長が期待されています。太陽光発電システムでは、複数の太陽電池モジュールをケーブルで接続し設置しますが、ケーブル同士を繋ぎ合わせるために中継コネクタが使用されます。屋外に設置するため、コネクタには防水性や耐候性が求められ、また、設置時の作業性も重要です。

本製品は太陽電池モジュール間をケーブルで繋ぎ合わせる中継コネクタです。当社は今後のさらなる発展が期待されるこの市場に注目し、接触性能・防水性・作業性に優れた「太陽電池モジュール用コネクタ」を開発、UL認証を取得いたしました。欧州市場向けTÜV認証に加えUL認証を取得し、今後、北米市場に向けても積極的な拡販活動を展開してまいります。



ISO/TS16949の認証を取得

当社はかねてより、海外を含めグループ内全生産事業所で、各種の品質マネジメント国際規格の認証取得を推進していますが、このほど、フィリピン工場で生産するカーナビゲーション用のタッチパネルを対象に、車載部品用の品質マネジメント国際規格ISO/TS16949の認証を取得しました。フィリピン工場は、2001年に操業を開始し、現在は、主に車載用・携帯用のタッチパネルを生産しており、全世界に製品を出荷しています。



ISO/TS16949は、品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」に、自動車向けの固有要求事項を付加した規格です。最近では世界の多くの自動車メーカーからサプライヤに対し認証が求められています。当社は、製品ラインナップの充実を含め、今後着実に拡大すると予想されるカーエレクトロニクス市場に、より積極的にアプローチしてまいります。

国際カーエレクトロニクス技術展に出展

当社は、2009年1月28日（水）から30日（金）の3日間、東京ビッグサイトにおいて開催された展示会「国際カーエレクトロニクス技術展」に出展いたしました。

国際カーエレクトロニクス技術展（通称カーエレJAPAN）は、今回が初開催、カーエレクトロニクス技術を一堂に展示する専門技術展です。当社は電子部品・デバイスゾーンに車載用カメラコネクタ&モジュール、アンテナコネクタ、フォースフィードバックタッチパネルなどカーエレクトロニクス分野に注力した製品を展示し、多数の来場者に当社の技術力をアピールいたしました。



「環境経営度調査」で総合ランキング（製造業）121位に

当社は、日本経済新聞社が実施した第12回「環境経営度調査」で、製造業の総合ランキングで121位となりました。この調査は企業の環境対策に対する総合的な評価を目的として実施されているもので、製造業は環境管理体制、汚染対策、資源循環、製品対策、温暖化対策の5つの評価項目への回答から総合スコアを算出するものです。

当社は、「地球環境との共存」を企業の責務と考え、重要な経営課題として位置付けてきました。今後も地球環境保全の実現に向けた取り組みを続けてまいります。

総合スコア

1位

490

121位 (当社)

372

510位

85

調査対象は上場企業、非上場の有力企業のうち製造業1,796社、非製造業2,639社。2008年8月下旬から11月上旬にアンケート調査し、有効回収率は製造業28.4%、非製造業13.5%。製造業の総合スコアの最高点は500。

テレビドラマにSMKリモコンが登場

2009年3月24日に放送されたフジテレビのドラマ「絶対彼氏スペシャル」に当社のプレゼンテーションリモコン「リモートポイントプレゼンター」（特別仕様）が使用されました。

当社のプレゼンテーションリモコンが、ドラマで使用する近未来型デザインのレーザー付リモコンのイメージに近いことから、フジテレビの依頼を受けて製作したものです。ドラマの出演者やスタッフの方々からも好評をいただきました。

リモートポイントプレゼンターは、PowerPoint®でスライドショーを実行中の「進む」「戻る」「ミュート」操作やポインティングをするための、電波無線方式のマウスリモコンです。



ホームページをリニューアルしました

当社では、2008年11月よりブランドイメージの向上と、製品情報の充実を図るためホームページをリニューアルいたしました。

コーポレートカラーの青を基調とした洗練されたデザインを採用し、サイト全体に統一感を持たせました。また、製品情報については、分類別、用途別、特長別の検索メニューを用意、製品情報をデータベース化することで情報量の増加、スムーズな更新を実現しています。

みなさまに使いやすいホームページを目指して、今後も改良を重ねてまいりますので、是非、新しいホームページをご活用くださいますようお願いいたします。

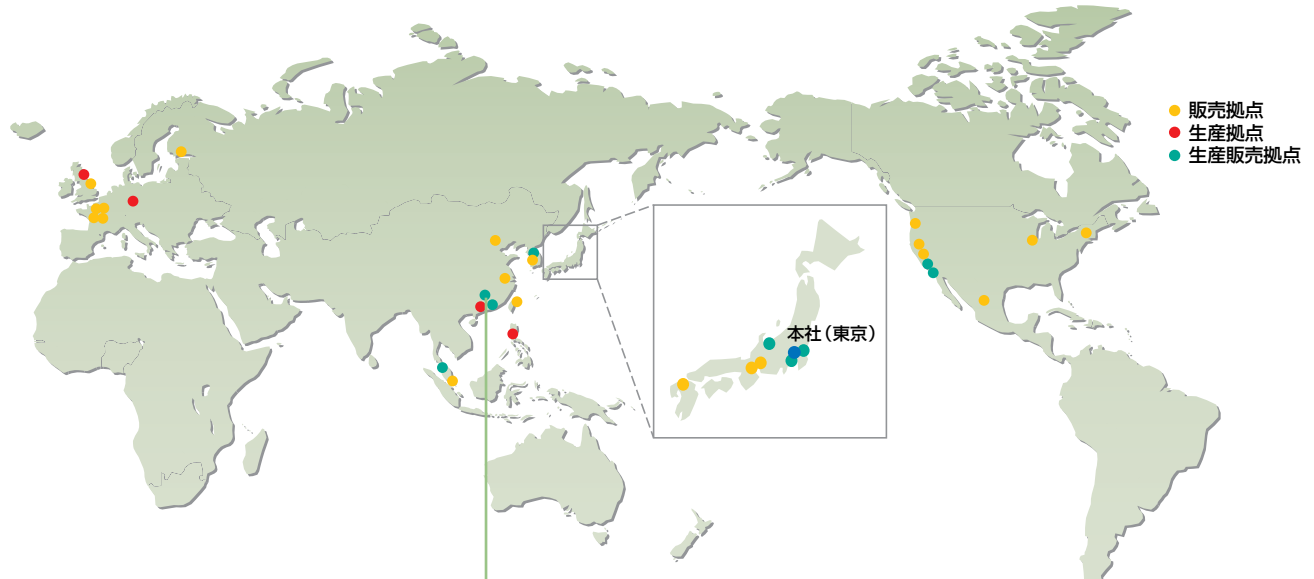
<http://www.smk.co.jp/>

IRページ



トップページ





シンセン
中国・深圳

SMK Electronics (Shenzhen) Co., Ltd.



ASIA

SMK High-Tech Taiwan Trading Co., Ltd.
 SMK Electronics (H.K.) Ltd.
 SMK Trading (H.K.) Ltd.
 SMK Dongguan Gaobu Factory
 SMK Electronics (Shenzhen) Co., Ltd.
 SMK Electronics Trading (H.K.) Ltd. Shenzhen Office
 SMK Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd.
 SMK Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd. Beijing Office
 SMK Electronics Int'l Trading (Shanghai) Co., Ltd.
 SMK Electronics Singapore Pte. Ltd.
 SMK Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.
 SMK Electronics (Philis.) Corporation
 SMK Korea Co., Ltd.
 SMK Korea Co., Ltd. Seoul Office

EUROPE

SMK Europe N.V.
 SMK Europe N.V., U.K. Branch
 SMK Europe N.V., France Branch
 SMK Europe N.V., Munich Office
 SMK Europe N.V., Dortmund Office
 SMK (U.K.) Ltd.
 SMK Hungary Kft.
 SMK Corporation Helsinki Office

NORTH AMERICA

SMK Electronics Corporation U.S.A.
 SMK-Link Electronics Corporation
 SMK Electronics Corporation U.S.A., East Office
 SMK Electronics Corporation U.S.A., San Jose Office
 SMK Electronics Corporation U.S.A., Los Angeles Office
 SMK Electronics Corporation U.S.A., Seattle Office
 SMK Electronics Corporation U.S.A., Chicago Office
 SMK Mexicana S.R.L. de C.V.
 SMK Mexicana S.R.L. de C.V., Mexico City Office
 SMK Manufacturing, Inc.
 SMK Electronica S.A. de C.V.

決算概要(連結)

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

| 科目 | 86期 (2008年3月31日) | 87期 (2009年3月31日) |
|----------------|---------------------|---------------------|
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | 39,532 | 34,302 |
| 固定資産 | 27,204 | 23,865 |
| 有形固定資産 | 19,200 | 18,021 |
| 無形固定資産 | 908 | 781 |
| 投資その他の資産 | 7,095 | 5,063 |
| 資産合計 | 66,737 | 58,168 |
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | 28,149 | 21,810 |
| 固定負債 | 6,201 | 7,278 |
| 負債合計 | 34,351 | 29,088 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | 34,843 | 31,432 |
| 資本金 | 7,996 | 7,996 |
| 資本剰余金 | 12,370 | 12,347 |
| 利益剰余金 | 16,740 | 13,961 |
| 自己株式 | △2,264 | △2,873 |
| 評価・換算差額等 | △2,465 | △2,421 |
| その他有価証券評価差額金 | △160 | △29 |
| 為替換算調整勘定 | △2,304 | △2,392 |
| 新株予約権 | — | 55 |
| 少数株主持分 | 8 | 13 |
| 純資産合計 | 32,386 | 29,079 |
| 負債純資産合計 | 66,737 | 58,168 |

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

| 科目 | 86期 (自2007年4月1日 至2008年3月31日) | 87期 (自2008年4月1日 至2009年3月31日) |
|---|------------------------------------|------------------------------------|
| ① 売上高 | 87,659 | 72,742 |
| 売上原価 | 73,001 | 63,651 |
| 売上総利益 | 14,657 | 9,091 |
| 販売費及び一般管理費 | 9,003 | 8,852 |
| 営業利益 | 5,654 | 238 |
| 営業外収益 | 1,469 | 1,546 |
| 営業外費用 | 2,796 | 755 |
| 経常利益 | 4,327 | 1,029 |
| 特別利益 | 178 | 78 |
| ② 特別損失 | 500 | 2,450 |
| 税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△) | 4,005 | △1,341 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,463 | 480 |
| 法人税等還付税額 | △206 | △452 |
| 過年度法人税等 | — | △95 |
| 法人税等調整額 | 653 | 351 |
| 法人税等合計 | 1,909 | 283 |
| 少数株主利益又は少数株主損失(△) | 1 | △4 |
| 当期純利益又は当期純損失(△) | 2,094 | △1,620 |

POINT①

厳しい事業環境のなか、積極的な新製品の投入と価格競争力の向上によるシェアの拡大、営業力の強化などに努めてまいりましたが、87期の売上高は86期に比べ17.0%減少しました。

POINT②

87期は投資有価証券評価損1,680百万円、減損損失691百万円を計上しました。

POINT

87期より、ハンガリーの生産子会社1社、国内の生産子会社2社を連結の範囲に含めました。

POINT

中間配当金を1株当たり6円、期末配当金を1株当たり3円(年間配当金9円)に減配させていただきます。

連結株主資本等変動計算書 87期 (自 2008年4月1日 至 2009年3月31日)

(単位: 百万円)

| 科目 | 株主資本 | | | | |
|--------------------------|-------|--------|--------|--------|--------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 2008年3月31日残高 | 7,996 | 12,370 | 16,740 | △2,264 | 34,843 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | — | — | △981 | — | △981 |
| 当期純損失 | — | — | △1,620 | — | △1,620 |
| 自己株式の取得 | — | — | — | △667 | △667 |
| 自己株式の処分 | — | △22 | — | 57 | 35 |
| 連結範囲の変動 | — | — | △177 | — | △177 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額) | — | — | — | — | — |
| 当期変動額合計 | — | △22 | △2,779 | △609 | △3,410 |
| 2009年3月31日残高 | 7,996 | 12,347 | 13,961 | △2,873 | 31,432 |

| 科目 | 評価・換算差額等 | | | 新株予約権 | 少数株主持分 | 純資産合計 |
|--------------------------|--------------|----------|------------|-------|--------|--------|
| | その他有価証券評価差額金 | 為替換算調整勘定 | 評価・換算差額等合計 | | | |
| 2008年3月31日残高 | △160 | △2,304 | △2,465 | — | 8 | 32,386 |
| 当期変動額 | | | | | | |
| 剰余金の配当 | — | — | — | — | — | △981 |
| 当期純損失 | — | — | — | — | — | △1,620 |
| 自己株式の取得 | — | — | — | — | — | △667 |
| 自己株式の処分 | — | — | — | — | — | 35 |
| 連結範囲の変動 | — | — | — | — | — | △177 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額) | 131 | △87 | 43 | 55 | 4 | 104 |
| 当期変動額合計 | 131 | △87 | 43 | 55 | 4 | △3,306 |
| 2009年3月31日残高 | △29 | △2,392 | △2,421 | 55 | 13 | 29,079 |

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

| 科目 | 86期 | 87期 |
|----------------------|----------------------------|----------------------------|
| | (自 2007年4月1日 至 2008年3月31日) | (自 2008年4月1日 至 2009年3月31日) |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 6,070 | 9,249 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △6,819 | △4,020 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 533 | △3,419 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △269 | 54 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | △484 | 1,864 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 7,562 | 7,073 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | — | 134 |
| 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額 | △3 | — |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 7,073 | 9,072 |

決算概要(単独)

貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

| 科目 | 86期 (2008年3月31日) | 87期 (2009年3月31日) |
|-----------------|---------------------|---------------------|
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | 33,754 | 29,886 |
| 現金及び預金 | 2,996 | 4,349 |
| 受取手形及び売掛金 | 24,355 | 19,964 |
| たな卸資産 | 3,037 | 2,742 |
| その他 | 3,364 | 2,829 |
| 固定資産 | 26,906 | 23,782 |
| 有形固定資産 | 14,646 | 12,910 |
| 無形固定資産 | 80 | 151 |
| 投資その他の資産 | 12,179 | 10,720 |
| 資産合計 | 60,660 | 53,668 |
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | 26,313 | 19,535 |
| 支払手形及び買掛金 | 4,377 | 2,776 |
| 短期借入金 | 9,503 | 10,779 |
| 未払金 | 10,433 | 4,671 |
| その他 | 1,998 | 1,308 |
| 固定負債 | 6,140 | 7,238 |
| 社債 | 300 | — |
| 長期借入金 | 5,041 | 6,366 |
| 役員退職慰労引当金 | 388 | 390 |
| その他 | 411 | 482 |
| 負債合計 | 32,454 | 26,774 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | 28,367 | 26,866 |
| 資本金 | 7,996 | 7,996 |
| 資本剰余金 | 12,370 | 12,354 |
| 利益剰余金 | 10,145 | 9,291 |
| 自己株式 | △2,144 | △2,776 |
| 評価・換算差額等 | △160 | △29 |
| その他有価証券評価差額金 | △160 | △29 |
| 新株予約権 | — | 55 |
| 純資産合計 | 28,206 | 26,893 |
| 負債純資産合計 | 60,660 | 53,668 |

損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

| 科目 | 86期 (自2007年4月1日 至2008年3月31日) | 87期 (自2008年4月1日 至2009年3月31日) |
|-----------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 売上高 | 72,425 | 59,064 |
| 売上原価 | 64,440 | 54,253 |
| 売上総利益 | 7,985 | 4,810 |
| 販売費及び一般管理費 | 4,752 | 4,730 |
| 営業利益 | 3,232 | 80 |
| 営業外収益 | 2,591 | 2,918 |
| 営業外費用 | 1,620 | 642 |
| 経常利益 | 4,203 | 2,356 |
| 特別利益 | 193 | 39 |
| 特別損失 | 641 | 2,606 |
| 税引前当期純利益又は 税引前当期純損失(△) | 3,756 | △211 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 639 | — |
| 法人税等還付税額 | △206 | △452 |
| 過年度法人税等 | — | △95 |
| 法人税等調整額 | 754 | 208 |
| 法人税等合計 | 1,186 | △338 |
| 当期純利益 | 2,569 | 127 |

株主資本等変動計算書 87期 (自 2008年4月1日 至 2009年3月31日)

(単位: 百万円)

| 科目 | 株主資本 | | | | | | 自己株式 | 株主資本合計 |
|--------------------------|-------|--------|----------|-------|----------|--------|--------|--------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | | | |
| | | 資本準備金 | その他資本剰余金 | 利益準備金 | その他利益剰余金 | | | |
| 2008年3月31日残高 | 7,996 | 12,057 | 313 | 1,306 | 8,839 | △2,144 | 28,367 | |
| 当期変動額 | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | — | — | — | — | △981 | — | △981 | |
| 当期純利益 | — | — | — | — | 127 | — | 127 | |
| 自己株式の取得 | — | — | — | — | — | △666 | △666 | |
| 自己株式の処分 | — | — | △15 | — | — | 35 | 19 | |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額) | — | — | — | — | — | — | — | |
| 当期変動額合計 | — | — | △15 | — | △853 | △631 | △1,500 | |
| 2009年3月31日残高 | 7,996 | 12,057 | 297 | 1,306 | 7,985 | △2,776 | 26,866 | |

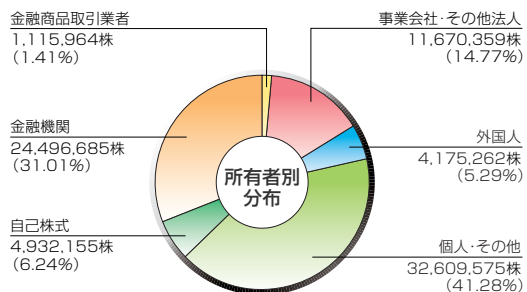
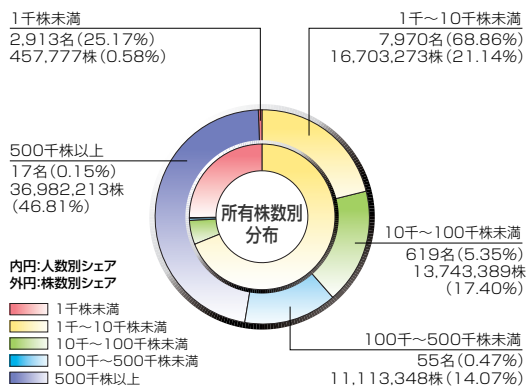
| 科目 | 評価・換算差額等 | | 新株予約権 | 純資産合計 |
|--------------------------|--------------|------------|-------|--------|
| | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等合計 | | |
| 2008年3月31日残高 | △160 | △160 | — | 28,206 |
| 当期変動額 | | | | |
| 剰余金の配当 | — | — | — | △981 |
| 当期純利益 | — | — | — | 127 |
| 自己株式の取得 | — | — | — | △666 |
| 自己株式の処分 | — | — | — | 19 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額) | 131 | 131 | 55 | 187 |
| 当期変動額合計 | 131 | 131 | 55 | △1,312 |
| 2009年3月31日残高 | △29 | △29 | 55 | 26,893 |

株式の状況 (2009年3月31日現在)

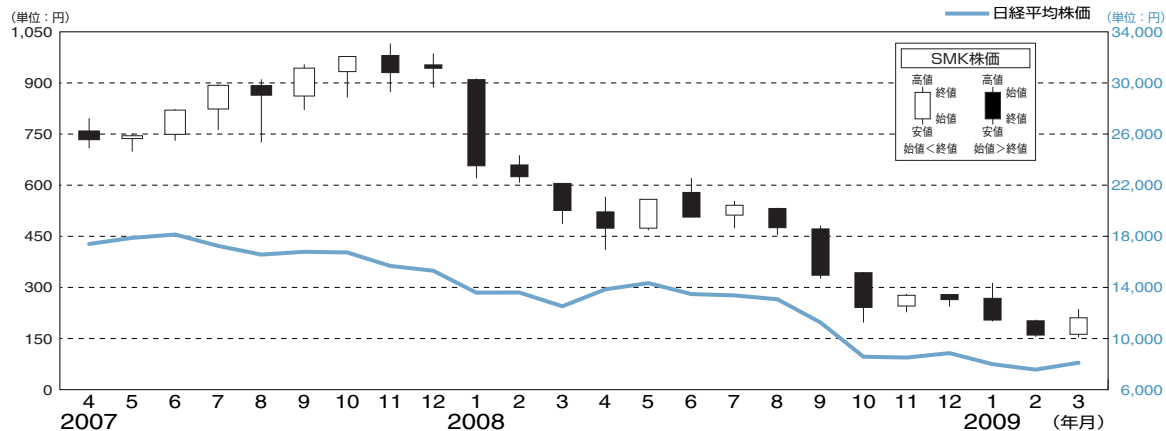
発行可能株式総数 195,961,274株
 発行済株式の総数 79,000,000株
 株主数 11,574名
 大株主 (上位10名)

| 株主名 | 持株数 | 持株比率 |
|----------------------|-------|------|
| | 千株 | % |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 | 5,698 | 7.21 |
| 日本生命保険相互会社 | 4,001 | 5.06 |
| 株式会社みずほコーポレート銀行 | 3,663 | 4.64 |
| 大日本印刷株式会社 | 3,200 | 4.05 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 3,134 | 3.97 |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 2,049 | 2.59 |
| 池田彰孝 | 1,714 | 2.17 |
| 明治安田生命保険相互会社 | 1,580 | 2.00 |
| S M K 協力業者持株会 | 1,504 | 1.90 |
| 財団法人昭和池田記念財団 | 1,500 | 1.90 |

(注) 1. 当社は自己株式4,932千株を保有しておりますが、上記株主からは除いております。
 2. 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりです。
 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 5,698千株
 三菱UFJ信託銀行株式会社 112千株



株価チャート【月足】



会社概要 (2009年3月31日現在)

- 商 号 SMK株式会社
- 英 文 社 名 SMK Corporation
- 設 立 昭和4年(1929年)1月15日
- 主 たる 事 業 電気、通信および電子機器その他産業機械、
情報機器等に使用される各種電子機構部品の製造販売
- 資 本 金 7,996,828,021円
- 従業員数(SMKグループ) 11,482名
- 本 社 〒142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号
TEL (03) 3785-1111 (大代表)
FAX (03) 3785-1878
ホームページアドレス <http://www.smk.co.jp/>

役員一覧 (2009年6月25日現在)

取締役および監査役

| | | | | |
|-----------|---|---|---|-----|
| 代表取締役社長 | 中 | 村 | 哲 | 也 |
| 代表取締役副社長 | 池 | 田 | 靖 | 光 |
| 取締役専務執行役員 | 矢 | 本 | 哲 | 士 |
| 取締役常務執行役員 | 山 | 田 | | 一 |
| 取 締 役 | 棚 | 橋 | 祐 | 治 |
| 常 勤 監 査 役 | 池 | 田 | 彰 | 孝 |
| 常 勤 監 査 役 | 小 | 林 | 健 | 二 |
| 監 査 役 | 小 | 林 | 秀 | 文 |
| 監 査 役 | 杉 | 原 | 幸 | 一 郎 |
| 監 査 役 | 中 | 島 | | 成 |

執行役員

| | | | | |
|--------|-----|---|-----|---|
| 常務執行役員 | 入 | 澤 | | 誠 |
| 常務執行役員 | 角 | | 芳 | 幸 |
| 常務執行役員 | 櫻 | 井 | 慶 | 雄 |
| 執行役員 | 松 | 本 | 秀 | 夫 |
| 執行役員 | 歌 | 崎 | | 晃 |
| 執行役員 | 若 | 林 | 幹 | 雄 |
| 執行役員 | ポール | ・ | エバン | ス |
| 執行役員 | 磯 | 田 | | 勉 |
| 執行役員 | 宮 | 川 | | 宏 |

事業所一覧 (2009年3月31日現在)

- ゲートシティオフィス 〒141-0032
東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎 イーストタワー18階
TEL (03) 3785-1111 (大代表)
- 大 阪 支 店 〒535-0021
大阪府大阪市旭区清水4-3-11
TEL (06) 6953-7222 (代)
- 名 古 屋 支 店 〒453-0014
愛知県名古屋市中村区則武1-19-13 KSビル6階
TEL (052) 453-3011 (代)
- 茨 城 営 業 所 〒319-1301
茨城県日立市十王町伊師20-9
TEL (0294) 20-2144
- 神 奈 川 営 業 所 〒242-0026
神奈川県大和市草柳3-1-8
TEL (046) 262-0710
- 福 岡 営 業 所 〒812-0011
福岡県福岡市博多区博多駅前3-25-24
八百治ビル6階
TEL (092) 472-7236
- 北 陸 営 業 所 〒939-2366
富山県富山市八尾町保内1-1
TEL (076) 455-1213
- 富山事業所・富山テクノロジーセンター
〒939-2366
富山県富山市八尾町保内1-1
TEL (076) 455-1212 (代)
- ひ た ち 事 業 所 〒319-1301
茨城県日立市十王町伊師20-9
TEL (0294) 20-2111 (代)
- 大 和 事 業 所 〒242-0026
神奈川県大和市草柳3-1-8
TEL (046) 262-0711
- やまと流通センター 〒242-0026
神奈川県大和市草柳3-1-8
TEL (046) 262-6861
- 海 外 拠 点 台湾・香港・中国・シンガポール・
フィリピン・韓国・マレーシア・
ベルギー・ドイツ・イギリス・フランス・ハンガリー・
フィンランド・アメリカ・メキシコ

株主メモ

| | |
|-----------------------|---|
| 事業年度 | 4月1日～翌年3月31日 |
| 定時株主総会 | 6月開催(年一回) |
| 期末配当金受領株主確定日 | 3月31日 |
| 中間配当金受領株主確定日 | 9月30日 |
| 定時株主総会の基準日 | 3月31日 |
| | 上記のほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。 |
| 公告掲載URL | http://www.smk.co.jp/ |
| | ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告とすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 |
| 上場取引所 | 東京証券取引所(市場第一部) |
| 証券コード | 6798 |
| 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711(通話料無料) インターネットアドレス http://www.tr.mufug.jp/daikou/ |

【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買増・買取請求、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式は売買ができませんので、特別口座から証券会社の口座へのお振替をお奨めいたします。**お振替など各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

【単元未満株式(1,000株未満の株式)の買増・買取請求のご案内】

単元未満株式(1,000株未満の株式)をご所有の株主様は、1,000株に不足する数の株式を当社から買い増し、単元株とすることができます。また、ご所有の単元未満株式を時価にて当社にご売却いただくこともできます。

なお、当社はこの度、株主様にご負担いただいております**単元未満株式の買増・買取請求にかかる手数料を無料^(注)**といたしました。この機会に単元未満株式の買増または買取請求のご利用をご検討くださいますようお願い申し上げます。買増・買取手続きの詳細につきましては、お取引の証券会社または当社株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行にお問合せください。

(注) お取引に際して、証券会社等に支払う手数料につきましては、取引の証券会社等にお問合せください。

SMK株式会社

〒142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号
TEL (03) 3785-1111(大代表) FAX (03) 3785-1878
ホームページアドレス <http://www.smk.co.jp/>



本誌は大豆インキ
を使用しています